

ポイント10 大切にしたい自国の言語

日本人独特の脳の働き

角田忠信氏の実験によりますと、「日本人に限り、鳥の声や虫の音を左の脳で聴いている」ということです。しかも注

目すべきことは、その異なった脳の仕組みが日本人の先天的な人種的特徴ではなくて、後天的・学習的なものだ、ということです。

この発見は、「日本人の精神を司る脳が、日本語によって形成される」という事実を証明する偉大な発見で、「日本語の特徴こそが、日本人の物の考え方を特徴づけている」ことが考えられます。

英語の教科書にある“*There is an ox*”という文は、普通、「一頭の牛がいます」と訳されますが、実は *an ox* とは「一頭の去勢された牡牛」という意味の言葉で、一頭でない牛は *oxen* と言わなければなりません。

日本人は牝牡(めすおす)に関係なく、また数に関係なく、「あそこに牛がいるよ」という言い方をしますが、イギリス人やアメリカ人は、まず牝牡を見分け、さらにその数を確認した後でない、そのことが言

葉にして言えないのです。

このように言葉のもつ性質の違いによって、物の見方や考え方がどうしても異なったものにならざるを得ないことがよく判っていただけだと思います。

コラム

部首 米

稲穂にもみがついている形の象形字。

【粉】 “米を細かく分ける”こと。

【粘】 うるおう意味の占と黍との形声字。“うるおった黍”の“ねばる”こと。

【糖】 もやしの意味の唐と米との形声字。米のもやしから糖分である“あめ”を作る。